

# 県防災学習館機能強化基本計画



令和8年3月  
山形県防災くらし安心部  
防災危機管理課

機能強化基本計画の位置づけ	P 4
Ⅰ. 現状の整理機能強化方針	
1. 近年の災害と求められる防災学習	P 5
(1) 山形県の自然災害の特性	
2. 防災学習館の機能強化について	P 6
(1) 山形県防災学習館の現状	
(2) 防災学習館の展示物調査	
(3) 施設現状調査からの課題と対応の方向性	
(4) 各種アンケート調査	
(5) 防災学習館ヒアリング調査	
(6) 県民の防災意識向上の必要性	
Ⅱ. 必要な機能・展示内容	
1. 求められる学習機能	P 11
・ 施設として必要な機能・内容	
・ コンセプト	
・ 学びのポイント	
・ 展示に必要な機能（ソフト・ハード）	
2. 展示学習機能強化の方向性	P 12
・ 展示に必要な機能を受けた基本的な考え方	
・ 展示ストーリー（展示の流れ）	
・ 展示解説構成	
・ 各テーマの展示概要（① 居住地域の危険度）	
・ 解説構成	
・ 展示イメージ	
・ 各テーマの展示概要（② 避難行動の体験と学習）	
・ 解説構成	
・ 展示イメージ	
・ 各テーマの展示概要（③ 災害に備える物と知恵）	
・ 解説構成	
・ 展示イメージ	
・ 各テーマの展示概要（④ 山形の未来を築く防災）	
・ 解説構成	

---

3.施設に求められる新たな機能の方向性	P 19
・親子が安心して学べるしくみへの配慮	
・施設での諸活動促進	
・防災情報発信の充実	
・アウトリーチ活動、連携活動の充実	
・関連施設・団体との連携活動の充実	
III. 施設改修の検討	
1.建築工事、設備工事との調整項目	P 20
IV. 事業実施の方向性	
1.防災館での現在の活動内容	P 21
2.防災学習機能強化により考えられる活動	P 21
V. 管理運営計画	
1.現組織体制及び組織拡張の方向性	P 22
2.防災学習機能強化の方向性	P 23
VI. スケジュール（予定）	P 24

山形県には4つの活断層帯や活火山が存在し、気候変動による記録的な大雨等の頻発化・激甚化などを考えると、いつ大規模な災害が起きても不思議ではありません。人口減少や高齢化が進む中、災害による被害をできるだけ少なくし、人命を守るためには、日頃から、県民一人ひとりの防災意識の向上と地域の方々が互いに協力し助け合う取組が急務となっています。

山形県では令和6年度「地域における防災教育のあり方検討ワーキンググループ」において有識者や関係者により、議論が重ねられ「山形県の地域における防災教育のあり方」としてとりまとめています。この成果を踏まえて、令和7年度には、地域の方々が自ら学ぶ「防災学習」を推進し、自助・共助に向けた県民の防災意識の向上を図り、個々人の実践につなげていくため、学びの指針となる「地域における防災学習アクションガイド」を策定しています。

この中で、学習環境整備の一環として、県防災学習館の機能強化についての検討も求められており、本基本計画では、県防災学習館での防災学習を強化するために必要となる機能の方向性を定めます。

現状施設の調査やアンケート調査、ヒアリング調査、有識者の意見などを整理し、防災学習機能強化のための、機能強化の方向性を定める必要事項や参考資料とします。

## 1. 近年の災害と求められる防災学習

世界各地で頻発している自然災害は、日本において、また山形県においても発生しています。山形の豊かな自然の背景には、自然災害の危険が潜んでいることを県民の誰もが認識し、災害に備えることが求められます。以下に山形県の自然環境と災害特性について要点を示します。

### (1) 山形県の自然災害の特性

以下に山形県の自然災害の特性を地形や自然環境から示します。

#### ① 山形県の地形特性

1000m以上の急峻な山が連なる山地に囲まれ、扇状地と盆地等が形成され、日本海沿岸には広大な庄内平野が広がっています。最上川は県土の中央部を南北に流れ日本海に注ぐ延長229kmの一級河川で、大小428の支流があります。

#### ② 地形上からの自然災害要因（災害リスク）

##### ○ 平野部

軟弱地盤では、液状化現象が広範に起こる可能性が高く、地震被害を増大させる可能性があります。

##### ○ 山地部

急傾斜地が多いこと等から、地すべり等の土砂災害危険箇所が県内全域に点在しています。

##### ○ 水系

急峻な地形に降った雨は、支流を経て本流に流れ込み、河川は急激に増水する特徴があります。

#### ③ 山形県の地震

##### ○ 日本海で発生する地震

海底活断層による直下型地震のため、日本海沿岸への津波到達予想時間は早いところで約10分以内と想定されています。

##### ○ 内陸部で発生する地震

県内4地域にそれぞれ活断層帯が存在し、地震が発生した際の地震規模はいずれの地域もM7以上と想定されています。

#### ④ 山形県の火山噴火

鳥海山、蔵王山、吾妻山が噴火した場合、火山泥流による被害が想定され、河川を下る融雪型火山泥流も想定されています。また、肘折では火砕流台地が南方に数キロ、北方に約8km広がっており、地熱活動が継続しています。

## 2.防災学習館の機能強化について

県民の防災学習の拠点施設となるのが防災学習館です。防災学習館の現状やアンケート調査、ヒアリング調査、県外先進事例調査、委員会をはじめとした有識者の意見などの結果を整理し、防災学習機能強化へ向けた、方向性を定めるための必要事項や参考資料とします。

### (1)山形県防災学習館の現状

防災学習設備の老朽化・故障が進行しています。防災知識を涵養し、防災意識を醸成する、県民の防災学習拠点としての機能強化が求められます。

以下に防災学習館の現状について示します。

#### ①消防学校(三川町) に隣接した防災学習の拠点

山形県防災学習館は「災害の疑似体験等を通じて、防災についての知識及び技術の普及を図る」（【山形県防災学習館条例第1条】）ことを目的に設置

#### ②施設等の状況

##### ②-1主な学習設備

- 防災シアター、地震体験、消火体験、煙避難体験、応急手当体験、119番通報体験
- ・子供から大人まで幅広く対象としており、**防災知識の涵養、防災意識の醸成の場として有効**
- ・H10年度から運用を開始、**築25年以上経過し学習設備の老朽化・故障**が進行

##### ②-2利用者数

H10年度からの累計(R6年度末)

218,804人(R6年度実績 3,194人、最多年度(H10) 14,949人)

- ・**近年は減少傾向**が続いている

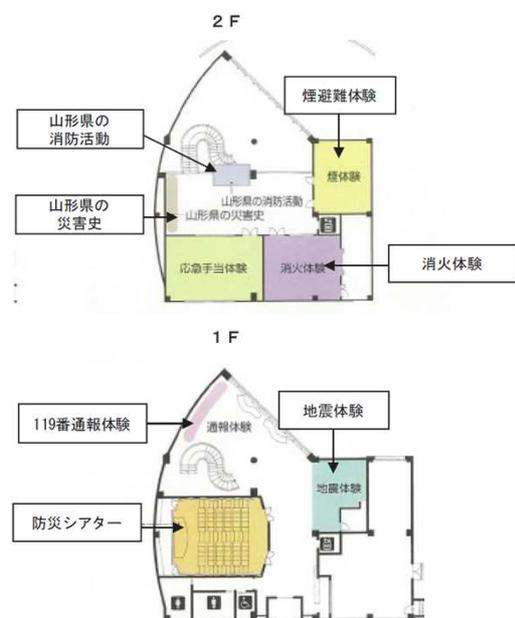
##### ②-3学習設備の状況

- ・**地震体験装置及び119番通報体験が故障**
- ・防災シアター等の映像に災害の実写やアニメーションを使用しているが、H24年製であり、**学習内容の経年変化や画像が劣化**

#### ③現在の県防災学習館の機能

展示区分		学習教材
地震	建物等倒壊	地震体験装置(故障中)
消防関係	火災	消火体験装置
		山形県の消防活動
		煙体験装置(一部故障中)
	応急救出・救助	研修ルーム
応急救護	人形	
		AED
各種災害	各種災害映像	防災シアター
	通信伝達	119番通報体験(一部故障中)
	避難所開設	簡易トイレ
その他	展示	災害への備え
		山形の災害史

#### ④現在の県防災学習館配置図



## (2)防災学習館の展示物調査

防災学習館の展示の調査結果から、展示全体にわたり、老朽化・経年劣化による故障や破損をはじめ、情報コンテンツが古く更新が必要であるなど、演出・制御システム、装置、上映コンテンツ、展示品、掲示情報など多岐にわたって、改善する必要がある点が確認されました。以下に確認点を整理します。

### 01 防災シアター

- ・プロジェクターの輝度・解像度不足
- ・シアター内照度が不安定
- ・レクチャー用書画カメラ文字判読困難
- ・上映ソフト内容が古い

### 02 地震体験

- ・ガイダンス映像は作動せず
- ・揺動装置は浸水被害により機能停止
- \*地下水位を検知、ポンプアップ設備が稼働中

### 03 煙体験

- ・ガイダンス映像は作動せず
- ・スモークマシン2台は故障
- ・炎演出照明故障

### 04 消火体験

- ・体験に合わせ油火災でないソフトが必要

### 05 応急手当体験

- ・更新する解説パネルの判読が困難
- ・訓練用人形(レサシオン)老朽化

### 06 通報体験

- ・公衆電話の1台のみ作動、他は撤去済
- ・家庭用電話からの体験ができない
- ・171災害用伝言ダイヤル導入の必要性

### 07 山形県の消防活動

- ・ファンタビューコンテンツ内容が古い

### 08 山形県の災害史

- ・新たな災害の増設パネルの追記・拡張

### 09 非常持ち出し品・備蓄品コーナー

- ・開館後展示品が増え、吹抜け側へ進出
- ・計画的に整理が必要

## (3)施設現状調査からの課題と対応の方向性

現状展示の調査結果を踏まえ、機能強化に向けての課題とその対応方法についての方向性を示します。

### □地震体験装置について

地震体験装置の故障により、来館者が本来得られるはずの学習効果が得られない。



### 故障のため令和5年1月から休止。対応検討が必要

- ・R7電源供給可能な起震車を購入
- ・既存起震車(H18購入)を学習館に配置

### □学習内容について

学習設備が消防関係に偏り、自然災害（風水害、津波等）の体験学習が不足している。



### 防災学習の充実に向け、学習機能を強化

- ・起こり得る自然災害を疑似体験できる機能の整備
- ・「防災学習アクションが 10」策定の中で検討
- 例：台風豪雨体験、浸水体験、津波洪水体験等

#### (4)各種アンケート調査

県内市町村の防災担当者へのアンケートでは、自然災害への対応が重視され、自然災害体験やVR災害体験が求められ、地震体験装置も有意義であると捉えられています。

##### ①山形県内35市町村の防災担当部署

###### ○各市町村の災害と対策状況は、近年多発の自然災害、土砂災害、地震を重要視

「特に備えが必要と重要視して取組んでいる災害と対策（複数回答可）」

→「豪雨」「土砂災害」「洪水」「地震」が70%超

###### ○現在の防災学習館の設備評価は、「地震体験装置・起震車」が最も高い

「現在の防災学習館の設備で有意義だと思うもの（複数回答可）」

→「地震体験装置・起震車」46%、「煙避難体験」34%、「応急手当体験」31%、「消火体験」29%、「防災シアター」26%

###### ○防災学習館に望む設備は、VR災害体験、自然災害体験、避難所体験が高い

「防災学習館への導入を望む設備（複数回答可）」

→「VRゴーグル災害体験」57%、「暴風雨体験」51%、「避難所体験」43%、「津波・洪水体験」37%「避難器具の体験」29%

#### (5)防災学習館ヒアリング調査

展示の老朽化や不具合がある中で、特に地震体験機能の復旧、自然災害の防災体験学習、シアターソフトの充実、県民が居住地域の災害特性を知ることへの対応が求められています。

##### ①機能強化への要望

###### ○故障している地震体験装置が担う機能の復旧と拡充

地震体験機能を復旧し、被災場所のバリエーション設定など、体験内容の拡充が必要。

###### ○山形県の自然災害についての防災体験や防災学習の導入

自分の地域のハザードを知り、「正しく恐れる」とともに防災のための体験や学習が必要。

###### ○団体見学時にシアターで上映する各種ソフトの充実

避難訓練の必要性の学習や、地区防災組織の活動内容など、多種多様なソフトを充実したい。

###### ○山形県の災害特性とともに県民が各地域の特色を知る必要性

自分の住む地域のハザードを知らないかもしれない。各地域の特色を知る必要がある。

##### ②展示設備調査

###### ○ほぼ全ての展示設備が、何らかの不具合にて性能を100%発揮できない

「煙避難→発煙・発火演出装置故障」、「応急手当→レサシアンの老朽化」、「119→5台の内1台のみ稼働」等

###### ○躯体・PC・制御機器の修繕が不可能で、展示設備としての寿命を超えている

「地震→浸水対策困難」、「シアター→プロジェクター・制御装置の製造中止」等

## (6) 県民の防災意識向上の必要性

調査結果や有識者会議、委員会で示された防災学習館や防災学習展示に対する意見を、防災学習機能強化に求められる事項として整理し、方向性を定めるための必要事項や参考資料とします。

### □山形県ならではの自然災害

#### 1. 山形県の地域特性と災害要因の存在

- (1) 県内に4つの活断層帯：直下型地震
- (2) 山形沖に日本海東縁変動帯（海底活断層）：津波
- (3) 4つの活火山（烏海山、蔵王山、吾妻山、肘折）：噴火等

#### 2. 大雨、土砂災害等の頻発化・激甚化



**迅速・的確な避難行動等、県民の防災意識の向上が必要**

### □有識者の意見（R7.6.10開催 災害に強い県づくりに向けた有識者会議：第1回）

- 津波による被災体験がない中で、災害を自分事とする防災意識の育成が必要。
- 児童が被災疑似体験の機会を持つことで、自分事として再認識につなげられる。
- 子どものうちから地震や大雨等の体験型学習をし、理解する意義は大きい。
- 災害に免疫がない子どもたちに、災害の疑似体験の機会を創る。



**体験型学習による災害の自分事化が重要**

□有識者の意見 (R7.10.23 開催 地域における防災学習アクションプラン検討委員会：第1回)

**子どもをターゲットとしたコンテンツ**

- 子どもたちの興味を引く、ポジティブな記憶として残る体験が重要
- 子どもや家族連れが参加しやすいようなプログラム
- 災害から自分や家族、子どもを守るために必要な選択の視点で学べる

▶ **子どもたちの防災に対する興味関心を高める体験が必要**

**学校教育との連携**

- 学習指導要領の各教科の防災教育と防災学習館の機能との繋ぎの整理
- 学校安全を担う教員を育成するための場、情報発信、学習用の機材レンタル
- 学校教育と関連するために子どもたちの知的好奇心をくすぐる内容が重要
- 大人向けの学習スペースや天候に左右されないスペース、昼食が取れるスペース

▶ **学校教育での防災学習内容との連携やコンテンツ支援が必要**

**地域特性を踏まえた展開**

- 災害を疑似体験するだけでなく、火山がもたらす恵みと災害の両面が必要
- 地域の成り立ちや人々の暮らしに触れながら災害に興味を持ってもらう
- 日本海側にある山形県ならではの災害の仕組みを発信できる機会、コンテンツ

▶ **自分たちの地域特性とともに災害特性を知ることが必要**

**維持管理・更新**

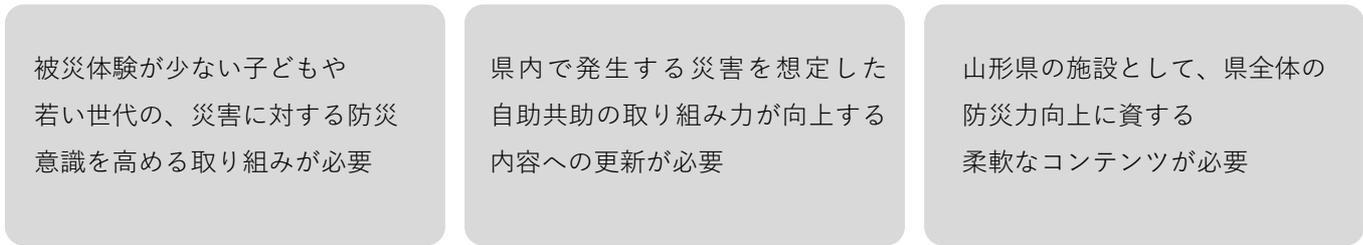
- 最新の災害内容をすぐに反映できるようなプログラムの導入
- スクリーンに最新の情報を常に掲示できるような仕組みが必要
- 維持管理の視点ではコンテンツの更新を長期的な視点から考える必要がある
- 更新が容易なコンテンツとしてVR やプロジェクションマッピングが良い

▶ **最新情報など、コンテンツをすぐに更新提示できるしくみが必要**

1.求められる学習機能

前項での各種調査をはじめ、現施設の課題や県民の防災意識向上の必要性を踏まえ、防災学習館に求められる学習機能と展示学習機能強化の方向性を示します。

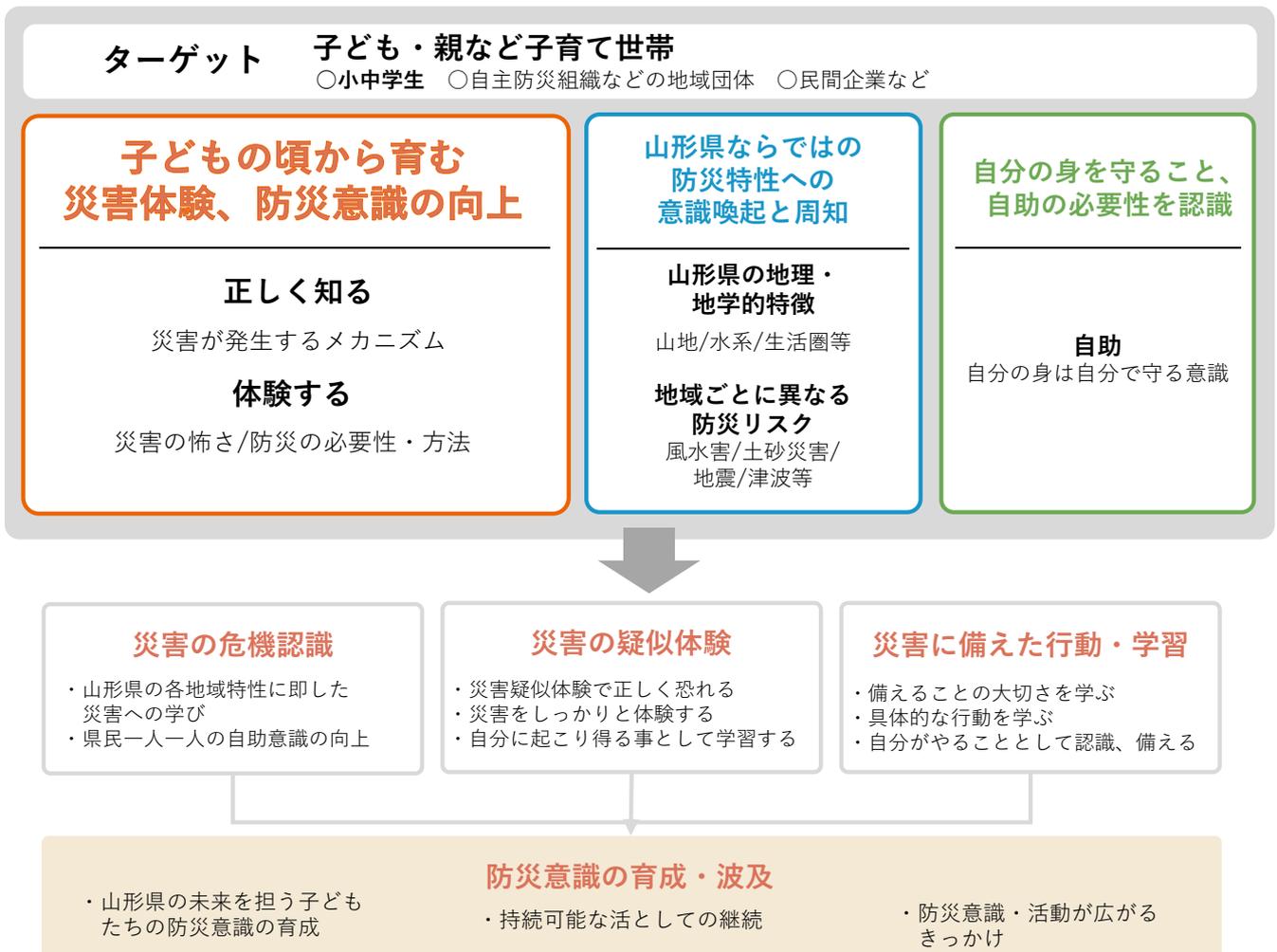
□施設として必要な機能・内容



□コンセプト

山形県の自然災害を正しく「知り」、「体験」する展示を通した災害の自分事化

□学びのポイント



2.展示学習機能の方向性

□展示の基本的な考え方

展示に必要な機能

災害の危機認識機能

災害の疑似体験機能

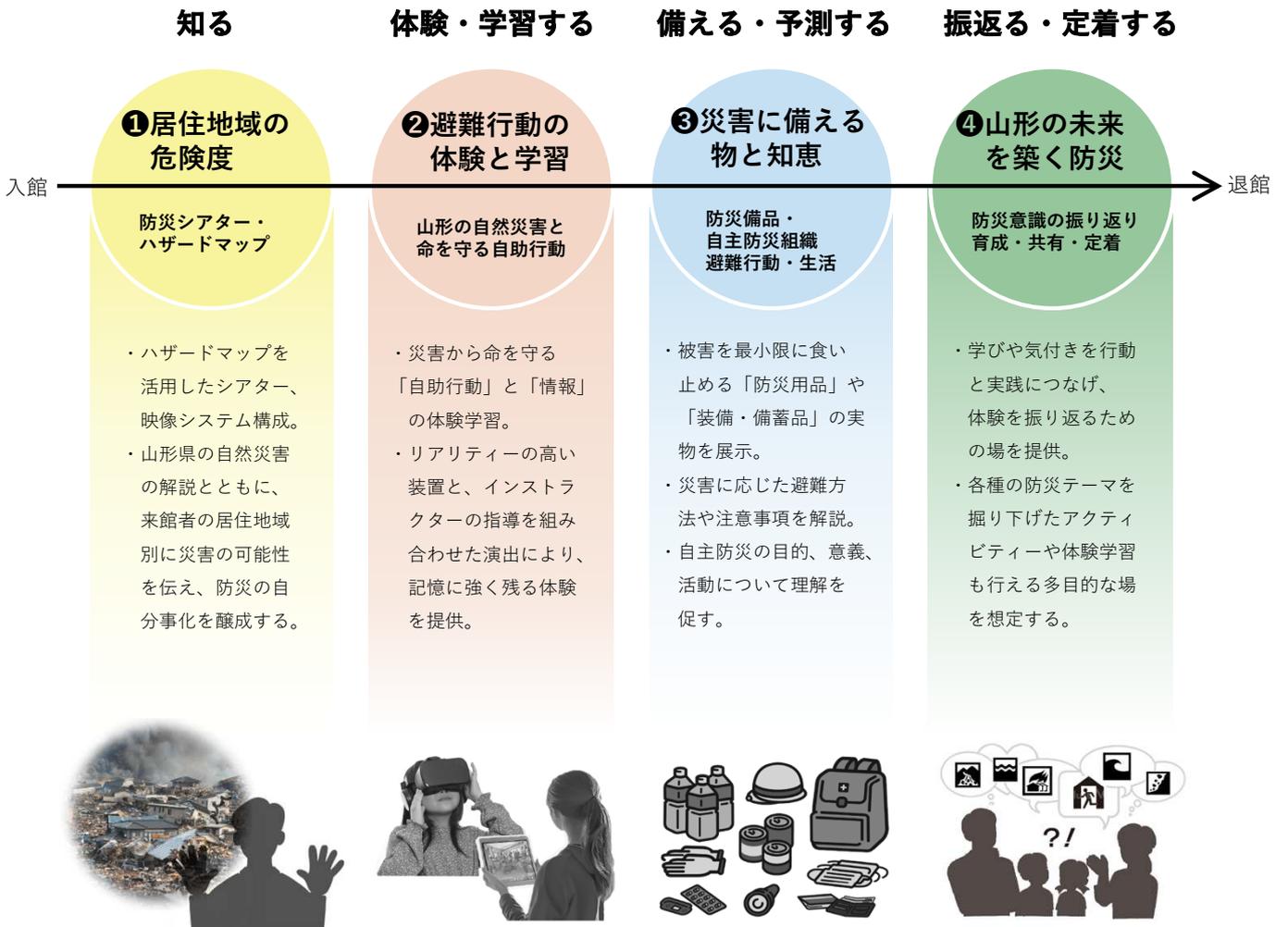
災害に備えた行動  
学習機能

防災意識の育成・  
波及機能



- ・ 予備知識のない来館者が、山形県の災害特性を踏まえた**防災の必要性を理解・体験し、自分事として自助行動を実践**する事のできる展示計画の整備。
- ・ 自然災害の脅威とメカニズム、居住域の危険度認識、防災体験、災害への備え、避難行動など、**防災に関する一連の流れをストーリーに沿って学ぶ**ことができる計画とする。
- ・ 展示体験を一過性のイベントで終わらせることなく、**身近な防災活動へ繋げる**ためのブリッジ機能を設ける。

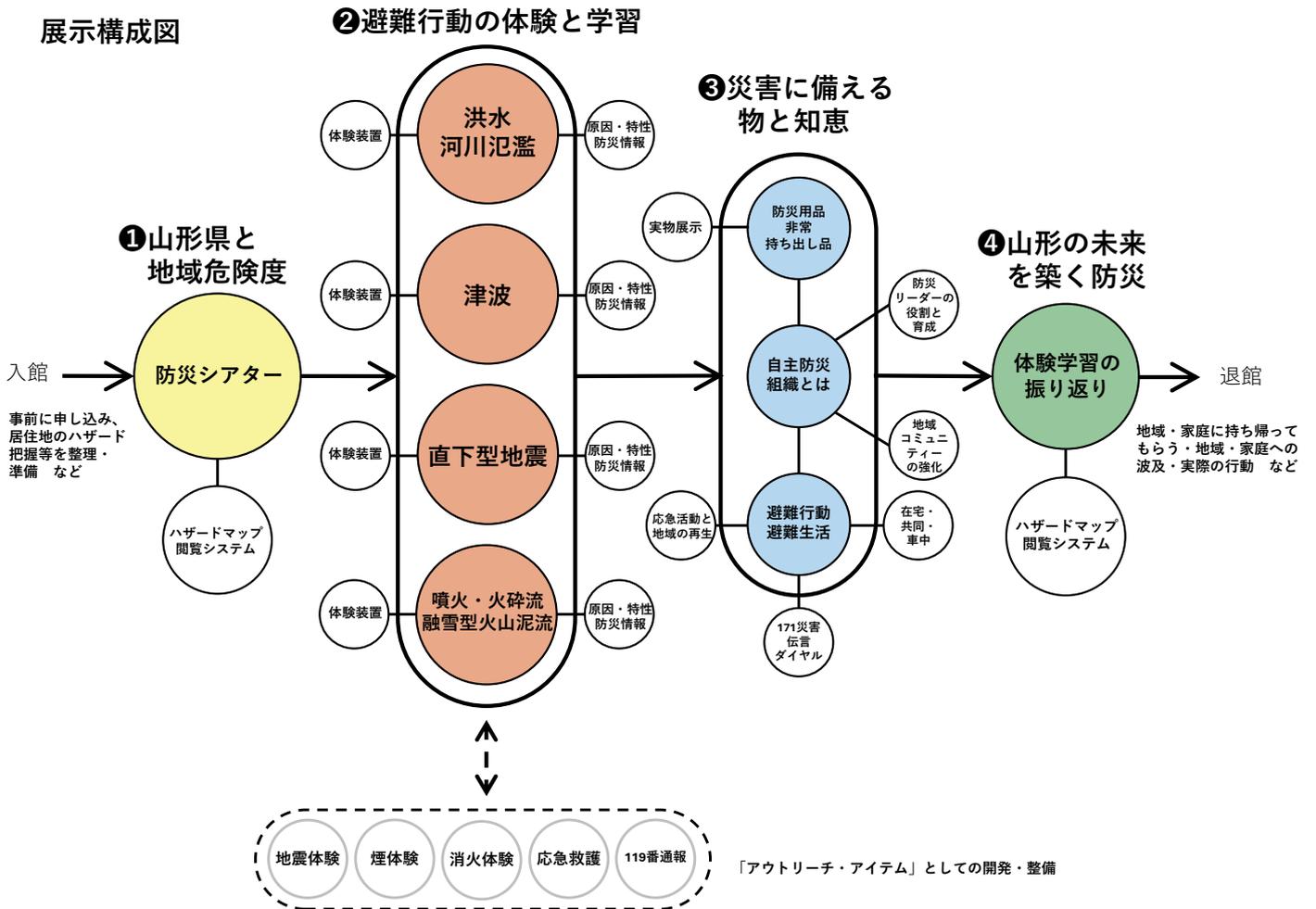
□展示ストーリー（展示の流れ）



□展示解説構成

- ・展示ストーリーを訴求項目とした、**想定される展示解説構成**(体験装置・解説情報等)を示す。
- ・整備目的や展示機能の明確化、および他の防災施設との差別化を意識し、**山形の自然災害(風水害、津波、地震、火山)**を取り扱う。
- ・既存の体験アイテム(地震体験・消火・煙・応急手当・119番通報)は常設展示から除外し、**アウトリーチやイベント対応の移動型展示**として、運営計画にて再整備を図る。

展示構成図



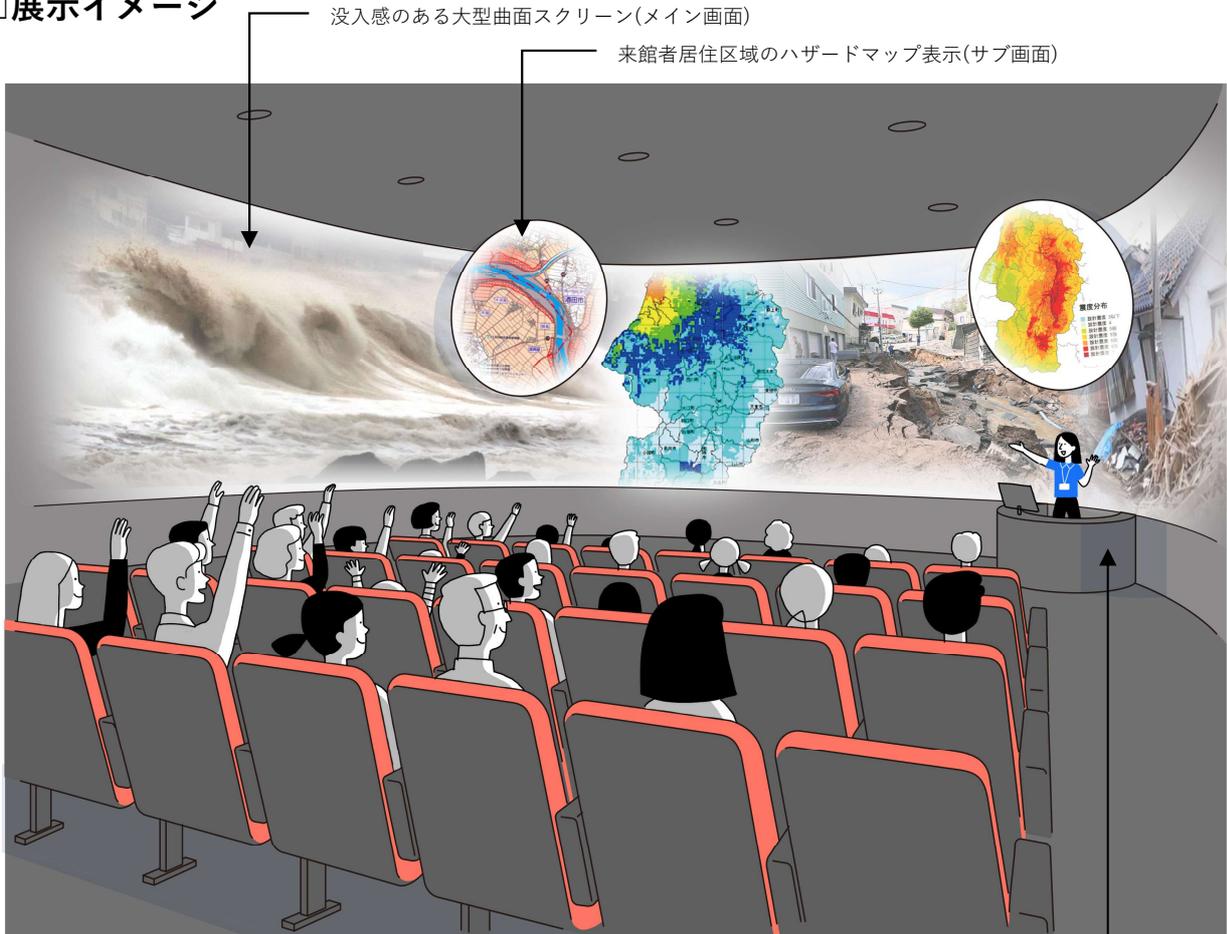
□各テーマの展示概要（①山形県と地域危険度）

- ・没入感のある大型曲面スクリーン(メイン・サブ)を備えたシアター空間。
- ・山形県で起こり得る自然災害のCG映像により、人知を超えた威力や被害の恐ろしさを実感。県の地勢と自然災害の特徴を関連付けて解説するとともに、防災の重要性を訴える。
- ・ハザードマップを映像システムに組み込み、来館者属性(居住地域)に合わせたガイダンスを実施してモチベーションを高め、災害の「自分事化」を図る。

□解説構成



□展示イメージ

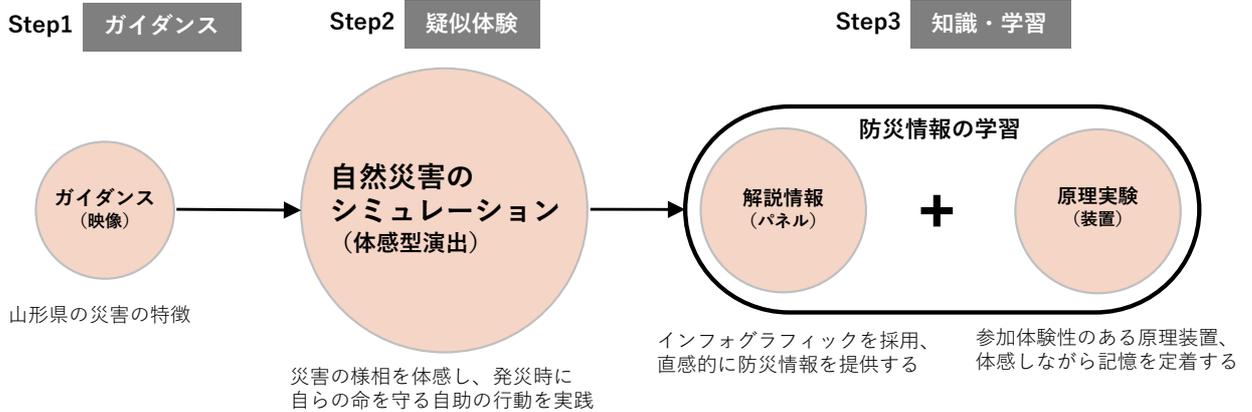


展示解説員によるガイダンスと誘導

□各テーマの展示概要 (②避難行動の体験と学習)

- ・山形県の自然災害について正しく知り、対応する事で、自分の命を守る「自助の行動」を学ぶ。
- ・県の風水害・地震・津波・火山の特徴について、リアルとVRのハイブリッドのシミュレーション型装置を導入し、発災時の具体的な現象や避難行動を身につける。また地球科学的な視野で自然災害発生メカニズムを紹介し、知識・対応力を強化する。
- ・展示は、以下3ステップで計画し、具体的な「自助の行動」と「防災情報」を紐づけて記憶に残す。
- ・展示計画は、インストラクターによる「指導計画」との相乗効果を目指し、設計時には相互調整を実施。緊張感のある効果的な体験提供を目指す。

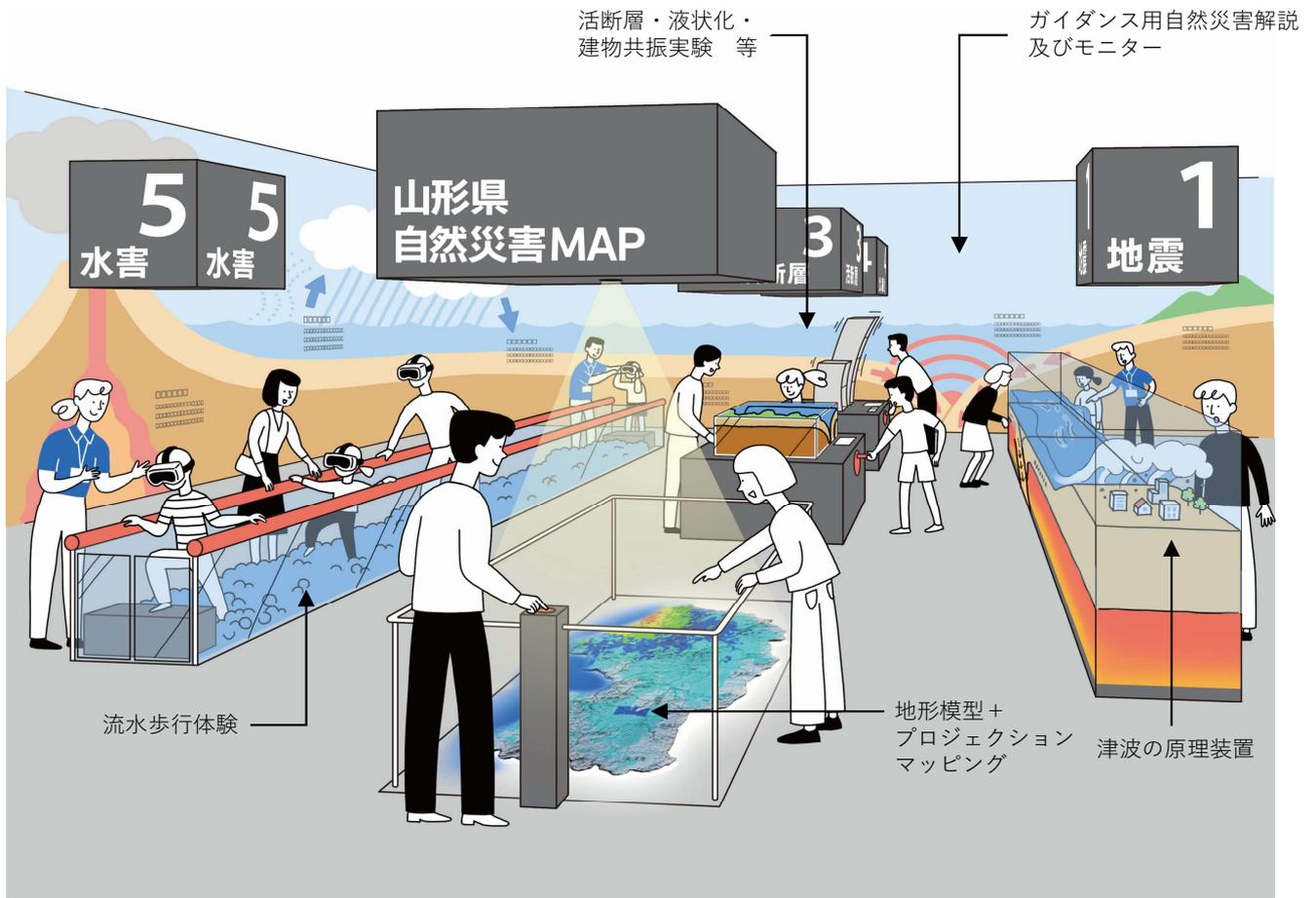
□解説構成



◆展示情報構成 (案)

	山形県の地勢と災害の特徴	想定される体感演出	解説情報	原理実験
大雨・風水害・土砂災害	・異常気象による線状降水帯等の豪雨 ・最上川水系への水量の集約と急激な増水	・豪雨、浸水の疑似体験 (VR・装置体験) ・流水歩行体験 (VR・装置体験) ・アンダーパスや地下からの脱出体験	・河川、砂防情報システム ・道路冠水危険箇所情報、道路防災情報、WEBマップ ・警戒レベルと取るべき行動 ・浸水ライン表示、サイン、冠水危険箇所一覧 など	・流水による浸食・堆積が分かる水理実験 ・台風・竜巻の疑似発生実験など
	・脆弱な山間部地盤と土砂災害	・土砂災害の疑似体験 (VR・装置体験)	・山地災害危険地区(崩落・土砂流出・地すべり) ・土砂災害警戒システム など	
津波	・海底活断層の直下型地震による津波到達時間(10分以内)	・津波の疑似体験 (VR・装置体験)	・浸水、被害想定図 ・津波警報と垂直避難(高台・避難タワー等)など	・津波の発生メカニズム装置実験 ・堤防や護岸整備による被害確認観察 など
地震	・平野部の液状化、内陸部の軟弱地盤、山間部の土砂災害 ・活断層の存在(陸・海域)と直下型地震(M7以上)	・直下型地震の疑似体験 (VR・装置体験)	・地震ハザードマップ ・活断層型直下型地震、液状化のしくみ ・震度とマグニチュード、P波とS波、緊急地震速報 ・発災時の対応、地震への備え(家具固定・耐震化)	・断層型地震のメカニズム装置実験 ・液状化のモデル実験 ・建物構造の違いによる共振実験
火山	・鳥海山、蔵王山、吾妻山の噴火の可能性 ・周辺生活圏への火山泥流(冬期は融雪型)	・噴火のプロジェクションマッピング演出 ・かつての災害と、最新データシミュレーション ・一次被害と二次被害のシミュレーション	・火山噴火被害想定図 ・メカニズム、監視、警戒レベル、予想と速報 ・噴石、火山弾、火山灰、土石流からの避難方法	・火山や噴火の仕組みを伝える装置実験 ・溶岩や火山灰の性質を再現する装置実験 ・顕微鏡による噴出物の観察体験など

□展示イメージ（各種体験装置・解説情報）



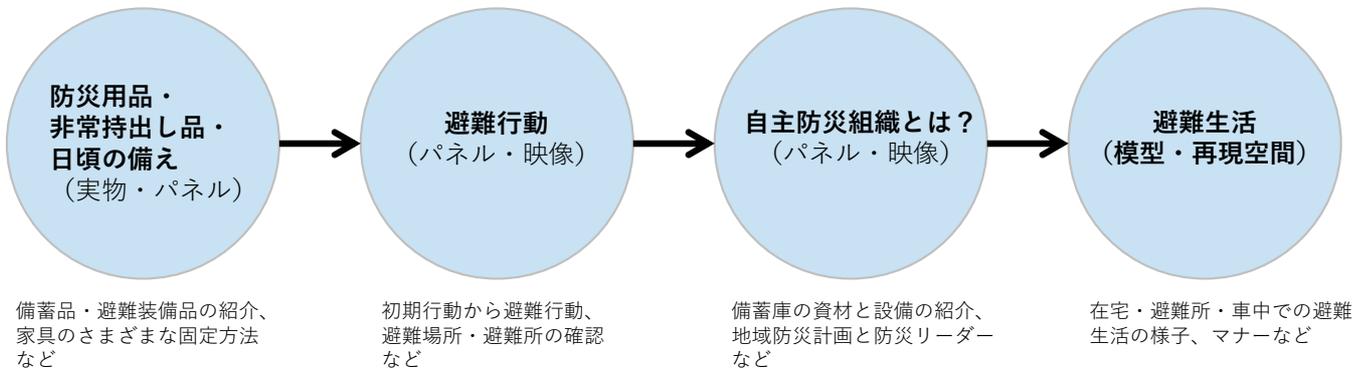
□展示イメージ（VR体験ブース） 3Dメガネ装着による、各種災害のバーチャル映像体験



□各テーマの展示概要（③災害に備える物と知恵）

- ・被害を最小限に留める「さまざまな装備と知恵」を具体的な実物や手法で示し、“備えの必要性”を持ち帰る事のできる展示を目指す。
- ・発災時や避難生活時のリアルな再現模型、被災者の生活をシミュレーションするコンテンツ演出など、有事の状況がイメージでき、利用者の記憶に残る展示を行う。
- ・山形県域の様々な地域防災活動や、災害から被災を免れた他の自治体の事例を紹介するなど、自主防災組織・活動の重要性を紹介し、対策の必要性を伝える。

□解説構成



□展示イメージ

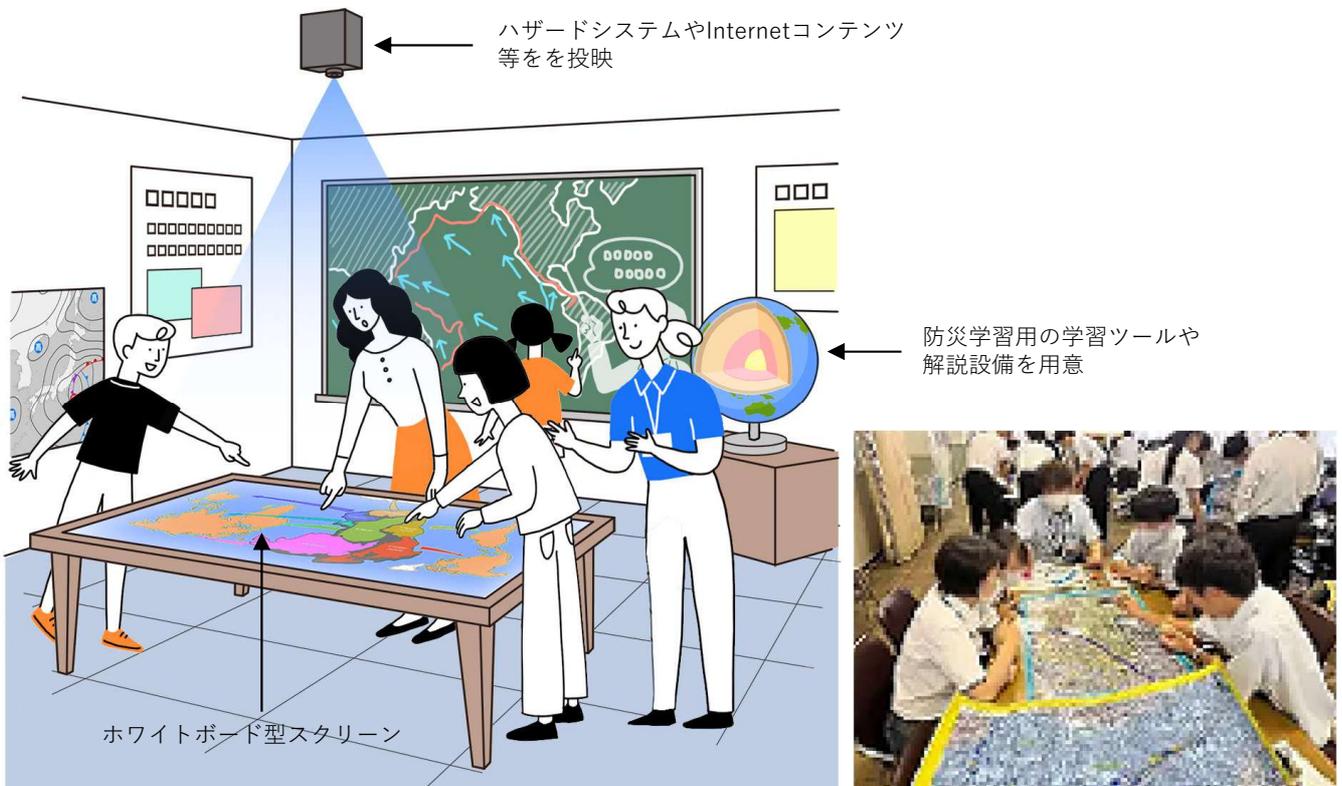
さまざまな備蓄品・装備品展示、地域防災・避難所生活の紹介



□各テーマの展示概要（④山形の未来を築く防災）

- ・施設での様々な体験を経験として定着させるための振り返りを行う「場」。
- ・“居住区域のハザード”や“避難ルート”を書き込む「図上訓練」等を実施。災害の自分事化を確実なものとするアクティビティを行う設備を備える。
- ・友達、学校のクラス、家族間で、学びの成果の体験と記憶を共有することで、来館者一人ひとりが地域防災力を高める礎であることを再認識し、生活の場へ持ち帰ってもらう。

□展示イメージ



図上訓練イメージ

### 3.施設に求められる新たな機能の方向性

防災学習機能を強化するにあたり、展示による防災体験学習以外に整備促進や配慮が望まれる事項を以下に示します。

#### □親子が安心して学べるしくみへの配慮

防災に関しての体験学習や知識の習得は、子どもの頃から早い時期に体験し、成長過程に応じた学習を継続することが大切です。防災学習を親子で気軽に体験できる、安全安心な場として、日常的に利用できる場としての受け入れられるように整備することが求められます。

#### □施設での諸活動促進

小中学校団体見学などの、展示見学時の全体説明や振り返りレクチャーをはじめ、施設での講座やイベント開催など、多くの利用者が一堂に学習できる多目的な場が、学習効果を深めるとともに、体験学習の機会を拡大します。

#### □防災情報発信の充実

より多くの県民に防災学習館を利用していただき、防災意識を高めるためには、施設の存在や活動内容を広く発信することが大切です。また、バーチャル展示体験、ハザードマップ活用方法案内、各種防災学習コンテンツなど来館せずに活用できるコンテンツの提供も重要です。

#### □アウトリーチ活動、連携活動の充実

小中学校に限らず、各地域の防災組織などへ出向き、県民の防災への意識を高めます。来館が容易ではない、遠隔地域へ出向いて、防災知識や防災体験機会を提供することも重要です。地域の災害特性へのレクチャーや防災学習講座などにより、防災活動・行動につなげます。

#### □関連施設・団体との連携活動の充実

市民防災センター（山形市）、西置賜防災センター（長井市）など類似施設との、相互の特色や機能を活かす連携活動や、山形の自然の特徴について、鳥海山・飛鳥ジオパーク、蔵王ジオパーク、栗駒山麓ジオパークなどとの連携活動により、防災学習を強化します。

基本計画段階で想定される「展示物制作」以外の各種工事内容や設計・工事区分について、類似施設における一般論として下記に整理します。

### 1.建築工事、設備工事との調整項目

建築工事・各種設備工事および展示工事は、基本設計段階に十分な協議のうえ設計・工事区分を定め、工事行程や予算執行上、最も効率的にかつ効果的に実施できる体制を目指します。

工事種別	項目	内容(区分については一般論として)
①躯体工事	起震装置地下ピット	建築工事にて塞ぎ、新規展示用床として整備。
②内装工事	床工事	展示与件(仕様)に基づき、建築内装工事。局所的な演出的用途は展示工事。
	壁工事	展示与件(仕様)に基づき、建築内装工事。局所的な演出的用途は展示工事。 局所的な演出的用途(環境グラフィック等)は展示工事。
	天井工事	展示与件(仕様)に基づき、建築内装工事。局所的な演出的用途は展示工事。
③電気設備工事	分電盤設備	展示与件(総電気容量・単相または3相・24時間電源等)に基づき、電気設備工事。
	コンセント設備	展示与件(位置・容量)に基づき、コンセント設置(床・壁・天井)まで電気設備工事。 ※フリーアクセスフロアが想定される場合は建築工事。 非常放送連動の信号線(演出装置の遮断)は、電気設備工事。
	一般照明設備	展示与件(空間照度・色温度)に基づき、電気設備工事。
	非常照明設備 感知器・通信設備	電気設備工事。
	非常放送設備 ITV設備	電気設備工事。
	展示照明	展示用配線ダクトは、展示与件に基づき電気設備工事。 展示用スポットライト、および演出制御される特殊照明は展示工事。
④空調衛生機械 設備工事	空調設備	展示与件(諸室構成・配置、各諸室の展示用途の発熱量)に基づき、設備工事。
	給排水設備	展示与件(給水・排水管、タンク・ピット等)に基づき、設備工事。
	消火設備	設備工事。
	昇降機設備	設備工事。
⑤展示工事	造作工事 グラフィック工事 装置・システム工事 映像コンテンツ工事 造形物工事	設計・制作・設置まで、全て展示工事
⑥その他	サイン工事	全館案内、誘導サインは展示工事。屋外サイン等は別途。
	総合受付 掲示板等	運営にかかわる内容は別途。

防災学習館の現状の事業内容を踏まえ、防災学習機能を強化するために、想定される新たな事業内容の方向性を示します。

### 1. 防災学習館での現在の活動内容

防災学習館では、多様な目的で来館する団体へ、要望に応じた案内を実施することを中心に、施設での活動が行われています。以下に現状の活動内容を示します。

- ・ 団体見学案内は3コース（1時間コース、1時間30分コース、その他：内容要相談）
- ・ 防災の日イベント
- ・ 春休み、夏休みイベントなど
- ・ 県民防災デー展示
- ・ 出前講座（ex.庄内総合支庁地域ふれあい講座：消防学校職員対応）
- \* 消防学校の消防士研修カリキュラムに防災学習館の利用体験が含まれているものがある
- \* 新たに加えたいと考えている機能に、移動啓発車両による出前講座対応がある

### 2. 防災学習機能強化により考えられる活動

従来からの活動は、団体見学への解説案内対応など、来館者の受入れ対応に関する活動が中心となっています。機能強化にあたり、この活動内容を強化しつつ、館外へのアウトリーチ活動や来館せずに活用できる防災学習コンテンツの発信、さらには多様な団体や組織との協働連携活動による機能強化が考えられます。以下に想定される活動内容を示します。

#### □施設での活動

- ・ ハザードマップ調べ方体験
- ・ タイムライン作成
- ・ 図上避難訓練
- ・ 山形県の自然災害講座 など

#### □アウトリーチ活動

- ・ 起震車による地震体験
- ・ ハザードマップ確認、検索体験
- ・ 応急救護体験 など

#### □他館、組織との連携活動

- ・ 避難ルート確認・移動訓練
- ・ 煙避難体験
- ・ 消火体験
- ・ 応急救護体験
- ・ 避難生活体験 など

#### □年間活動プログラム

- ・ 大型イベント（防災の日、夏休み、春休み、各記念日）
- ・ 定期イベント（月毎、毎週など定期メニュー開催）
- ・ 地域イベント（山間部、海浜など地域特性に合わせたイベント）など

#### □連携強化施設

- ・ 市民防災センター（山形市）
- ・ 西置賜防災センター（長井市）
- ・ 豊牧地すべり資料館（国土交通省）
- ・ 砂防資料館（国土交通省）
- ・ 鳥海山・飛島ジオパーク  
山形の自然講座  
（活火山、景観、水の恵み）など
- ・ 蔵王ジオパーク  
山形の火山と暮らし講座  
（水、土壌、生態系、人々の暮らし）など
- ・ 栗駒山麓ジオパーク  
山形の自然災害講座  
（地震、斜面、火山、洪水、自然災害克服）など

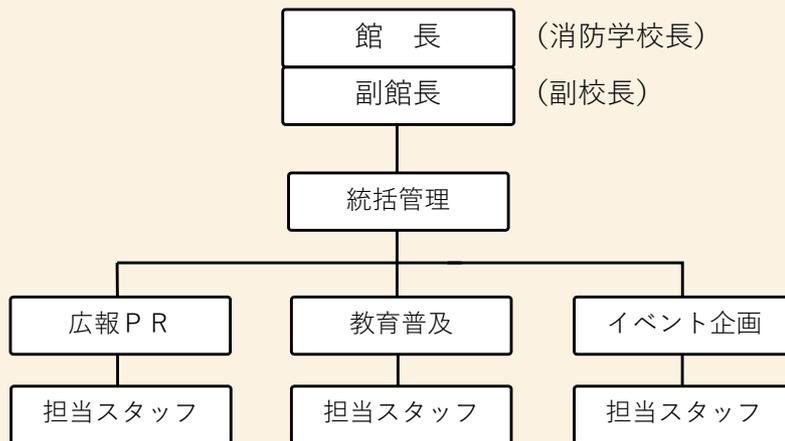
防災学習館の現状の事業内容や活動内容などを踏まえ、防災学習機能を強化するための新たな機能や機能拡大を設定し、運営内容に即した管理運営体制の方向性を示します。

### 1. 現組織体制及び組織拡張の方向性

現状の業務内容を「統括管理」、「広報PR」、「教育普及」、「イベント企画」の役割を踏まえて整理し、人員増加も念頭に入れた組織体制により、防災学習機能を強化します。

消防学校長、副校長のもと、施設・設備関係については消防学校総務課が管理しています。また、「防災指導員」3名が団体への展示解説など、来館者対応を行っています。加えて、施設でのイベントや企画展示なども実施してきました（防災指導員は県職員（会計年度任用職員）1名と委託業者職員2名）。出前講座などアウトリーチの要望については、庄内総合支庁総務課防災安全室職員が対応しています。

防災学習機能を強化する観点から、以下のような組織体制で業務内容を整理し、各業務をグループとして考え、臨時採用も含め、必要に応じて人員を増加させることが望まれます。



#### 統括管理

施設の活動全体を統括し推進します。併せて施設・設備関係の管理を行います。

#### 広報PR

ホームページ等を活用し、防災学習館の利用促進を行います。また、多様な施設や団体との協働により広報活動を促進します。

#### 教育普及

団体への展示解説など、団体対応をはじめとした来館者対応を行います。多様な利用者への対応を通して、防災学習を促進します。また、出前講座など、アウトリーチにも対応します。

#### イベント企画・運営

館内での企画展やイベント開催の立案や誘致をはじめ、実施にあたっての各種業務を行います。

## 2.防災学習機能強化の方向性

防災学習館の組織全体の活動を通して、学習機能の強化をすすめていきます。

### 利用者対応 ～団体受入れ体制強化～

小中学校の団体見学をはじめ、多くの団体見学を受け入れられるようにし、また館内で防災学習イベント等を円滑に実施できるしくみや体制を整備し、利用者の増加を促進します。

### 広報PR ～情報発信強化～

ホームページや各種ツールを活用し、県内小中学校の団体見学や各地域の防災組織など、多くの利用者の来館を誘引するとともに、防災関連学習ツール等の利活用を促進します。

### アウトリーチ ～館外活動強化～

来館者に向けた学習館での活動にとどまらず、来館が困難な県民などに対して防災学習機会を提供するために、出前講座や起震車による地震体験の提供など訪問型活動を行います。

### 連携活動 ～交流活動強化～

防災学習をはじめ、各種防災活動を推進する関連施設や組織・団体などと連携した活動を行います。既存活動での連携のみならず、新たな協働活動を進め、学習機会を拡げます。

## VI.スケジュール（予定）

令和 8年度		基本設計・実施設計
令和 9年度	}	工事
令和10年度		
令和11年度		使用開始

注）本計画は設計前時点のものであり、設計等の状況に応じて修正する場合があります